

「水害の教訓を後世に語り継ぐ」

～昭和61年8月5日洪水から30年の取組～

1. 経緯／概要

○阿武隈川上流全域で甚大な被害を被った「昭和61年8月5日洪水」から、今年で30年。

いまだ治水施設の整備は十分とは言えず、近年、局地的集中豪雨が多発、水害経験者の高齢化や水害を経験していない世代もあり、洪水の恐ろしさが薄れゆく傾向。

○このような背景の中、過去の洪水を風化させず、後世に語り継ぐことが大切であり、かつ、地域住民の防災意識の向上を目的として、この度、事務所内に「S61年洪水から30年プロジェクトチーム」(30PT)を立ち上げ、各種取組を実施。

2. 30PTメンバー

河川関係各課より横断的に、プロジェクトチームを編成。

◎建設専門官(調一)、建設専門官(用一)、指導官(出張所)、工務第一課技官、調査第一課技官、河川管理課係長 計6名

3. 主な取組内容

①名刺・会議資料等へロゴマーク使用

※事務所幹部の名刺は必須

S61.8 洪水から30年
～逃がす・防ぐ・取り戻す～

②パンフレット作成・配布

③巡回パネル展

・7/7～9/30にかけ、沿川10市町村、福島県庁、福島駅、商業施設内等、14箇所を実施

④災害対策車の展示

・巡回パネル展に併せて、伊達市と本宮市で実施

⑤座談会

・10/5に福島県杉妻会館において、当時被災者、消防団、行政関係者8名で実施



7/7巡回パネル展の様子



10/5開催 座談会の様子

4. その他

・本取組は流域首長からなる「阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会」での取組と位置付け、沿川10市町村及び福島県と連携し展開。

※一般社団法人東北地域づくり協会から「みちのく国づくり支援事業」として支援・協力をいただいた。